

## 昭和電工株式会社 2020年通期 決算説明会 Q & A 要旨

日時：2021年2月18日（木）10:00～11:30

説明者：代表取締役社長CEO 森川 宏平

代表取締役常務執行役員 CFO 竹内 元浩

\*内容は、開催日時点の情報に基づいております。

### 【全社】

**Q 2023年の法人格統合までに、エレクトロニクスを始めとするコア成長事業の設備投資の考え方は。**

A エレクトロニクス事業の設備投資はタイミングを逃さないことが重要だと考えている。2020年は昭和電工マテリアルズのCMP スラリー、銅積層層板事業や電子材料用高純度ガスへの設備投資を意思決定した。

**Q 事業ポートフォリオ再編の今後の見通しは。**

A 現時点で決まったことはない。統合後の事業ポートフォリオの考え方は「統合新会社の長期ビジョン」で示した通りである。

**Q 2020年実績のCOVID-19影響額の内訳は。**

A 自動車関連製品や化学品等のコモディティ向けの影響が主なもの。エレクトロニクス関連事業の影響は小さい。

**Q 2021年予想営業利益の上下差の考え方は。**

A 石油化学、化学品各セグメントは上期に定期修理を予定している。無機セグメントの黒鉛電極事業は下期にスプレッド回復を見込む。各セグメント共通して、下期に季節性の影響で強含むことを想定。特に、モビリティ事業は下期に新車種向けの貢献を期待。

**Q 2021年のエレクトロニクス関連事業はどうか。**

A 2019年は顧客の在庫調整から落ち込んだが、2020年は回復、2021年はデータセンター向け需要中心に拡大を想定。当社のエレクトロニクス事業は市場成長を上回る成長率の伸長を見込んでいる。

### 【無機セグメント】

（黒鉛電極）

**Q 2020年の販売価格下落はどのような要因だったのか。**

A 顧客である電炉鋼業界の黒鉛電極の在庫調整が、COVID-19の影響もあり想定以上に長引いたためと見ている。

**Q 黒鉛電極の足元の設備稼働率と、2021年の業績見通しは。**

A 2020年の設備稼働率は3～4割まで落ち込んだものの、2021年は相当程度回復を見込んでおり、足元では8割程度まで稼働は上昇している。

2021年の販売価格は底値だった2017年比では高値圏で推移する見通し。ニードルコーキスの調達価格とのスプレッドはある程度確保する想定。

### 【昭和電工マテリアルズセグメント】

**Q 昭和電工マテリアルズの今年の事業見通しは。**

A ほぼ全事業で力強い回復を見込んでいる。買収時に業績貢献として織り込んだ水準を想定。

以上

\*本資料の将来見通し等に関する記述は、今後以下のような様々な要因により実際の業績と大きく異なる結果となる可能性があります。

- ・COVID-19拡大が世界経済に与える影響、経済情勢、ナフサ等原材料価格、黒鉛電極製品等の需要動向および市況、為替レート
- ・法改正や訴訟等のリスクなどが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

また、為替レートや国産ナフサ価格など予想の前提につきましては、2021年2月17日発表の弊社決算短信をご参照ください。